

学会彙報

○平成三年度大塚漢文学会大会

六月二十九日(土)

於湯島聖堂

〔研究発表〕

一、イエズス会士によるヨーロッパへの『四書』の紹介について

筑波大学大学院 井川 義次氏

二、「分」の思想について

——初期法家の官僚制思想

筑波大学大学院 菅本 大二氏

一、周予同の経学観について

文教大学 阿川 修三氏

一、「也」の位置

お茶の水女子大学 相原 茂氏

一、宮体詩の性格について

筑波大学大学院 坂口 三樹氏

一、漸江と徽派版画の関係について

大妻女子大学 松村 茂樹氏

一、神韻派と絵画

山形大学 宮内 保氏

一、伍子胥列伝「掘楚平王墓、出其戸、鞭之三百」について

京都教育大学 青木 五郎氏

〔漢文教育—『史記』の指導をめぐる—〕

一、漢文教育のフロンティア

——潜在的学習関心層へのアプローチ

小山工業高等専門学校 中田 伸一氏

一、伯夷・叔斉の話をいかに生徒に理解させるか

延岡東高等学校 後藤 雄幸氏

〔総会〕

一、開会の辞

内山副委員長

二、議長選出 望月真澄氏を選出

水沢委員長

四、諸報告

(1) 庶務

伊原委員

(2) 企画

田部井委員

(3) 会報編集

高橋委員

五、議事

(1) 平成二年度決算

大塚委員

(2) 平成三年度予算

大塚委員

(3) 委員選挙

水沢利忠、内山知也、田部井文雄、高橋均、向嶋成美、詔

口明、中村俊也、大上正美、安藤信広、小谷一郎、加藤敏、

大塚秀明、白井啓介、伊原大策、小松建男の十五氏を選出

(4) その他

内山副委員長

六、閉会の辞

○月例会
平成三年九月二十一日(土)

於桜蔭会館

一、在上海大学現状報告——留学を終えて

筑波大学大学院 村田 和弘氏

一、文字の規格化について——辞書の現場から

大修館書店 中原 尚道氏

平成三年十二月七日(土)

於湯島聖堂

一、『儒林外史』における作者の言語意識

筑波大学大学院 白沢 寛子氏

一、中国における学術書出版動向

内山書店 三浦 勝利氏

平成四年三月七日(土)

於湯島聖堂

一、白居易の諷諭詩——江州左遷後の作品をめぐって

筑波大学大学院 玉城 要氏

一、陶淵明の擬古詩について

文教大学 沼口 勝氏

○平成四年、五年度委員会

委員長 水沢 利忠

副委員長 内山 知也

総務 向嶋 成美

(企画) 田部井文雄、中村 俊也、加藤 敏

(庶務) 伊原 大策、玉城 要

会計 大塚 秀明、小松 建男

会報編集 高橋 均、諺口 明、大上 正美、安藤 信広、

小谷 一郎、白井 啓介

会計監査 佐治 俊彦、阿川 修三

住所、勤務先等に変更のあった方は、事務局(〒305茨城県つくば市天王台一ノ一、筑波大学文芸・言語学系内)宛御一報下さい。

編集後記

本会報が、漢文学会会報として創刊されて、本号はその通巻五十号記念号である。

記念号を編集するに当って、会報編集担当委員は何回か会合をもち、議論を重ねた結果、通常号より掲載論文を多くすること、創刊号より四九号までの記事・彙報などの記録に基づいて漢文学会略史を編むこと、そして、創刊号より四九号の総目次を付すことでもって記念号とする企画を立てた。

今ここに、ほぼ通常号に倍する記念号を発行することができた。

この間多くの会員の協力を仰いだ。多くの資料を取捨選択して「漢文学会略史付資料」を編むについては小谷一郎委員が、総目次作製については安藤信広委員が中心となって作業を進め、それらを委員会が検討した。以上、記念号編集の経過について簡単に記すものである。

高橋均記

大塚漢文学会々則

- 一、本会は大家漢文学会と称する。
- 二、本会は漢文学及び漢文教育の研究と普及とを図ることを目的とする。
- 三、本会の会員は左の通りである。
 - 1、旧東京教育大学漢文学会々員であつて参加を希望する者
 - 2、その他入会を希望する者
- 四、本会の主な事業は左の通りである。
 - 1、総会 年一回
 - 2、例会 年約三回
 - 3、学会誌及び会員名簿の発行
 - 4、その他必要な事項
- 五、本会の役員は左の通りである。
 - 1、委員長 一名
 - 2、委員 若干名
 - 3、編集委員 若干名
- 六、役員の仕事
 - 1、委員長は本会を代表し委員とともに運営にあたる。
 - 2、委員は本会の庶務・会計・企画を分担する。
 - 3、編集委員は学会誌の発行にあたる。
- 七、役員を選出及び任期
 - 1、委員長は委員の互選による。
 - 2、委員は会員の互選による。
- 3 編集委員は委員会が委嘱する。

4 任期は二年とする。ただし重任は差し支えない。

八、会員は会費年額四千元を納める。

九、本会々則の変更は委員会の審議を経て総会出席者の過半数の承認を得なければならぬ。

附則1、本会則は昭和五十四年六月二十三日より東京教育大学漢文学会々則に代つて発効する。

2、本会の事務所を当分の間筑波大学文芸言語学系中国文学研究室に置く。以上

編集委員

(哲学・思想) 小林 信明・加賀 栄治・水沢 利忠
(文学・語学) 牛島 徳次・内山 知也・伊藤 虎丸
(漢文教育) 鎌田 正・金子 泰三・田部井文雄

中国文化 一九九二

平成四年六月一五日印刷
平成四年六月二〇日発行

漢文学会会報五〇号

編輯者

高橋 均・謡口 明・大上 正美
安藤 信広・小谷 一郎・白井 啓介

印刷所

東京都千代田区神田神保町三ノ一〇
株式会社 共立社 印刷所

電話(三三六)二〇二八
FAX(五三九九)八七八八
茨城県つくば市天王台一―一―一
筑波大学文芸言語学系内(二三〇五)

発行所

大塚漢文学会